名古屋地方気象台

愛知県地震概況
令和６年（2024 年）２月

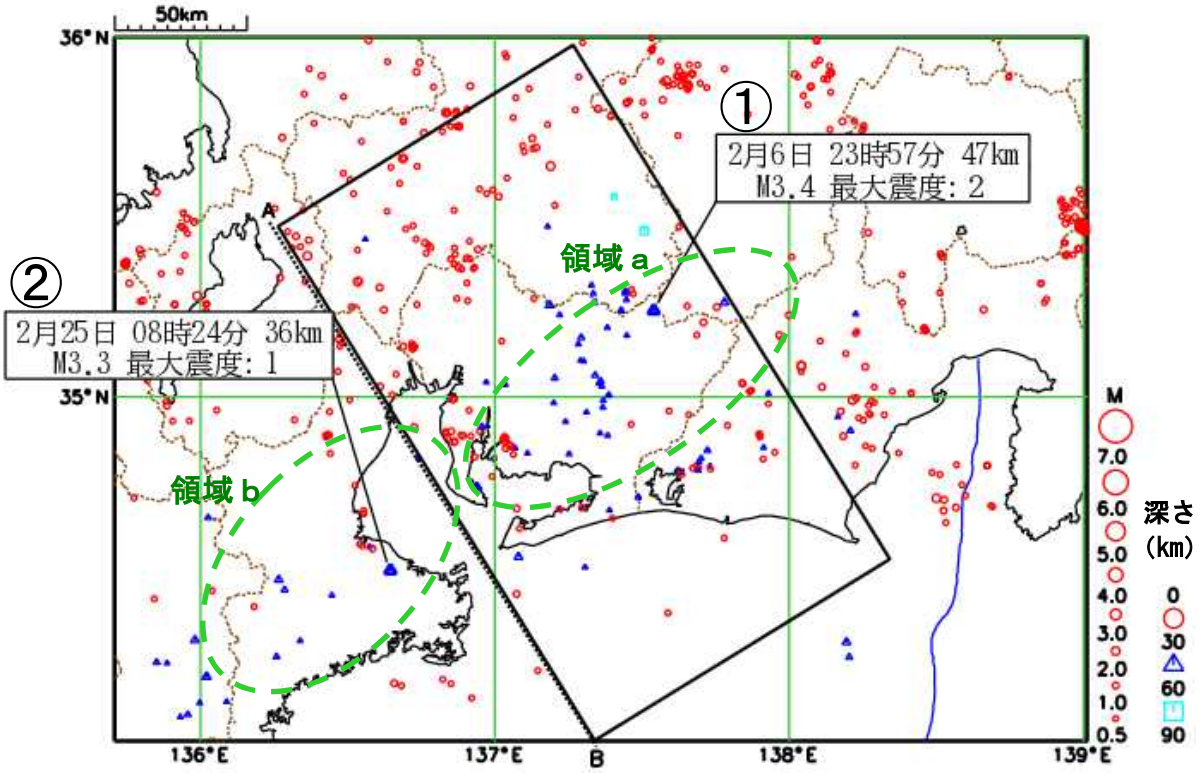
この資料は速報であり、後日の調査で修正することがあります。

○概況

１．愛知県内で震度１以上を観測した地震の状況
２月に愛知県内で震度１以上を観測した地震が３回発生しました。

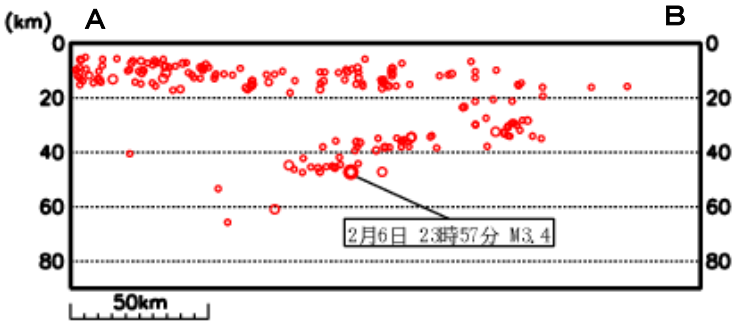
２．愛知県内や愛知県周辺で発生した主な地震
①６日 23 時 57 分に愛知県西部で M3.4 の地震（最大震度２　深さ 47km）が発生しました。
②25 日 08 時 24 分に三重県南部で M3.3 の地震（最大震度１　深さ 36km）が発生しました。

３.深部低周波地震の活動状況
・東海（領域ａ）
13～14 日、20 日
・紀伊半島北部（領域ｂ）
３～４日、９～11 日



震央分布図（2024 年２月１日～29 日　深さ０～90km　M≧0.5）

深部低周波地震（微動）
深部低周波地震の震央は震源決定精度が高くないため、地震が発生した領域を破線で表示しています。
（注）Ｍはマグニチュード（地震の規模）の略です。



左の断面図は、震央分布図中の斜めの四角形内の震源を、Ａ－Ｂに沿って置いたスクリーンに投影する形でプロットしたものです。深さ 25km 程度までの浅い震源の分布域は、陸側プレートの地殻内の活動によるものです。

○県内で震度１以上を観測した地震

愛知県西部（１頁目震央分布図①）

２月６日 23 時 57 分に愛知県西部で発生した M3.4 の地震（深さ 47km）により、長野県売木村で震度２を観測したほか、愛知県豊根村など、長野県、岐阜県、静岡県、で震度１を観測しました。（図１）。
この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

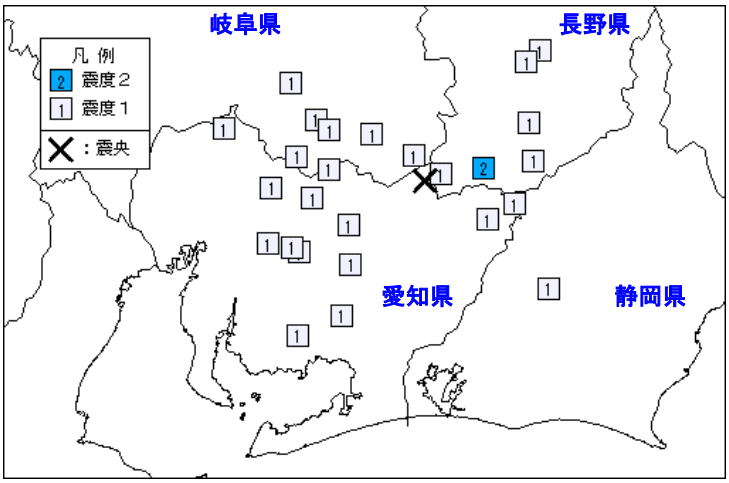


図１　２月６日 23 時 57 分 M3.4　震度分布図
（観測点別、×：震央）

京都府南部（１頁目震央分布図領域外）

２月 14 日 15 時 29 分に京都府南部で発生した M4.4 の地震（深さ 12km）により、京都府京都市伏見区で震度４を観測したほか、東海・北陸・近畿・中国・四国地方にかけて震度３～１を観測しました。（図２）。

この地震は地殻内で発生しました。

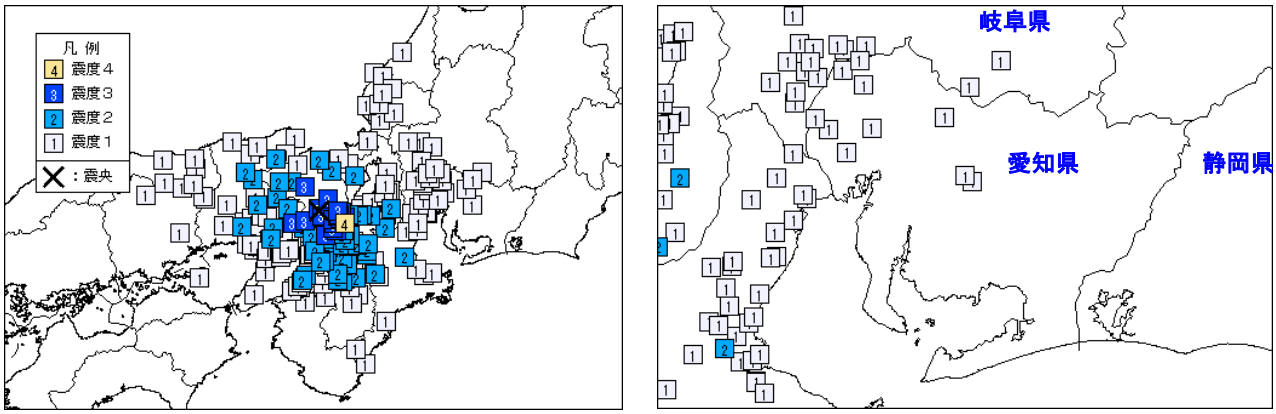


図２　２月 14 日 15 時 29 分 M4.4　震度分布図
（左：市町村別、右：観測点別拡大図、×：震央）

三重県南部（１頁目震央分布図②）

２月 25 日 08 時 24 分に三重県南部で発生した M3.3 の地震（深さ 36km）により、愛知県安城市、三重県伊勢市で震度１を観測しました。（図３）。

この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

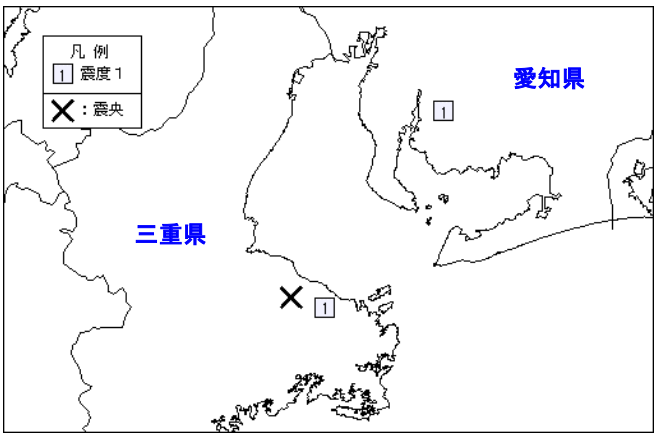


図３　２月 25 日 08 時 24 分 M3.3　震度分布図
（観測点別、×：震央）

○震度１以上を観測した地震の表（愛知県）

震源時（年月日時分）　震央地名　緯度　経度　深さ　マグニチュード 各地の震度
2024年02月06日23時57分　愛知県西部　35°14.4'N　137°32.3'E　47km　M3.4 愛知県　震度　1：豊根村下黒川＊,豊根村富山＊,岡崎市樫山町＊,瀬戸市追分町＊,豊田市大洞町 豊田市小坂町＊,豊田市藤岡飯野町＊,豊田市大沼町＊,豊田市長興寺＊ 豊田市足助町＊,犬山市五郎丸＊,幸田町菱池＊,愛知みよし市三好町＊
2024年02月14日15時29分　京都府南部　35°03.2'N　135°33.3'E　12km　M4.4 愛知県　震度　1：一宮市千秋,一宮市木曽川町＊,瀬戸市追分町＊,豊田市小坂町＊,豊田市長興寺＊ 蟹江町蟹江本町＊,愛西市江西町＊,愛西市諏訪町＊,清須市西枇杷島町住吉＊
2024年02月25日08時24分　三重県南部　34°30.7'N　136°38.6'E　36km　M3.3 愛知県　震度　1：安城市和泉町＊

（注　＊印の地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。）

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
※本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。
※地震関係の資料・情報は、名古屋地方気象台のホームページ『https://www.data.jma.go.jp/nagoya/index.html』からも随時ご覧になれますので、あわせてご利用下さい。
※2020年９月以降に発生した地震を含む図については、2020年８月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。

「三河地震」について

昭和 20 年（1945 年）1 月 13 日 3 時 38 分に三河湾で発生しました。M6.8 の内陸直下型の地震で、東北地方から九州地方まで揺れを感じ、規模の割に大きな被害となりました。愛知県下の矢作川下流域に位置する幡豆・碧海郡を中心に大被害が集中しました。最大震度は後年の調査によって震度 7 相当と見積もられています。（戦時中のため、詳細は不明なことが多い。）

南海トラフ地震と評している、東南海地震（昭和 19 年（1944 年）12 月 7 日 13 時 35 分、三重県南東沖 M7.9）と南海地震（昭和 21 年（1946 年）12 月 21 日 4 時 19 分、和歌山県南方沖 M8.0）の間で、東南海地震のわずか 37 日後でした。地震の特徴は、1）明瞭な地表地震断層が出現した、2）前震が多数あった、3）余震活動が活発で現在も続いている、4）発光現象が多く目撃された、5）隆起側で激しい被害が発生した、などでした。

三河地震の死者の死因については、詳しい資料は残されていませんが、他の内陸直下型地震と同様に、家屋倒壊による圧死者が多かったと考えられます。また、東南海地震による震度 6 以上の揺れに見舞われ多くの家屋が被害を受けましたが、そのような状況の中で三河地震が発生して、もとの強度に較べて弱くなっていた家が倒壊してしまったとも考えられます。

※内閣府防災報告書「第 4 章 三河地震の災害の概要」から抜粋、参照。

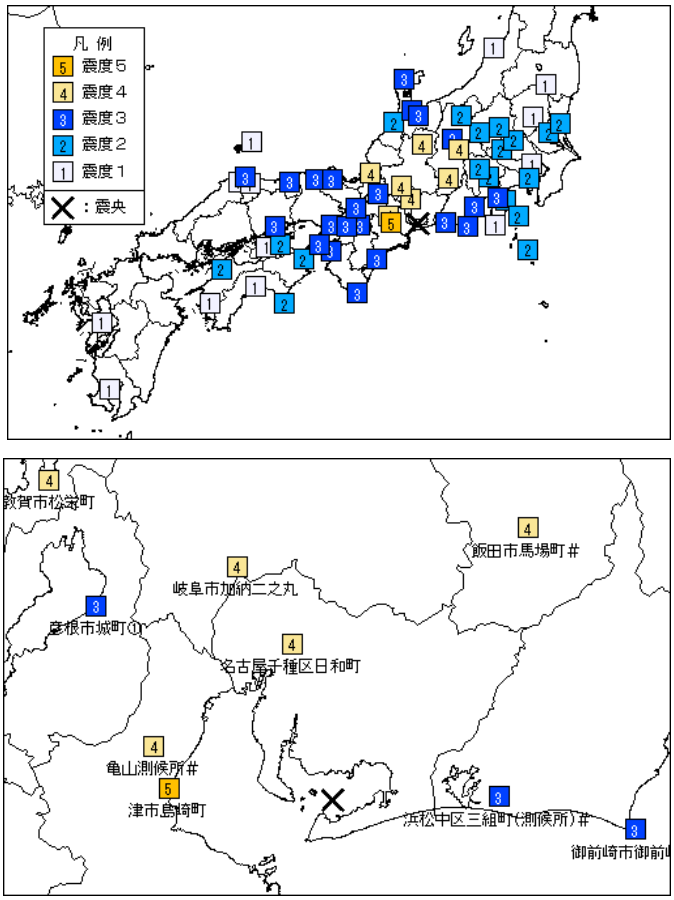


図１　三河地震　震度分布図
（観測点別、×：震央）
上段：震度分布図
下段：愛知県付近の震度分布図

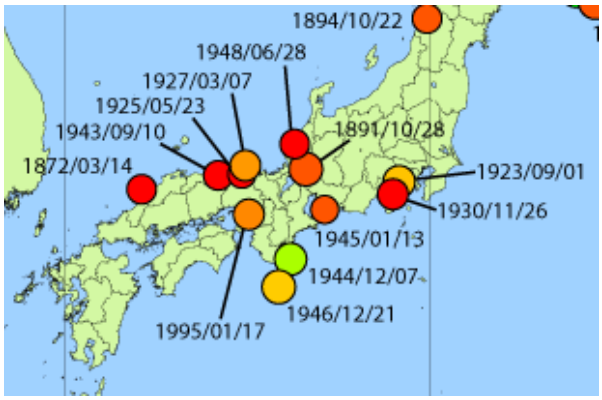


図２　過去の被害地震
（東海周辺を切り取り）
出典：気象庁 HP 過去の地震津波災害

（参考）愛知県内の被害をもたらした地震の記録
https://www.data.jma.go.jp/nagoya/shosai/chara/kiroku_jishin.html